



正岡 千博 議員

ため池の保全

問

①改修に当たり補助率の高く地元負担の少ない「国営総合農地防災事業」への取組を問う。
②稲荷八幡池決壊から学んだこと。
③土取場、土捨場の確保で完了後、地主への補償がいまではないか。現況を問う。

答

中村市長

①この事業の採択基準は、3000畝以上の農用地の受益面積が必要で、愛媛県下では取り組んでいない。補助率は国・県で97%と高率で、地元負担の少ない事業であるが、採択基準の規模から取組は非常に難しいものと考えている。今後のため池改修は、地域

の現状に合う補助率の高い事業を、県の指導を仰ぎ、地元との連携を密にしながら検討していきたい。

答

産業建設部長

②原因の究明を行い、施工過程に原因があったことから、復旧は改修工法と同じ開削による前刃金土法で復旧された。決壊後、市内のため池の災害の未然防止と適正な保全を図るため、伊予市ため池の保全に関する条例を定め、日常管理をして、より一層ため池の安全管理に努めている。

③国の補助工事は用地補償が対象となり、地権者と補償契約を交わしているが、県単独及び市単独の改修工事は用地補償が対象にならず、無償で提供していただいている。

JR四国・伊予鉄道の踏切の現状と課題

問

①各踏切の延長と幅員の中で、本市としての改修エリアを問う。
②市内の各踏切を調査したが、特に松本・吾川踏切は危険で

ある。JRと協議を。
③遮断機が下りている時間に大きな差がある。改善方法を要望すべきと思うが、考えは。

答

中村市長

①遮断機が設置されている踏切では、遮断機内の軌道敷内、遮断機のない踏切では、軌道の中心から3メートルはJRの管理する区域であり、区域外が伊予市の管理する道路となる。

②市内には、踏切が55カ所あり、この中で市道と交差する踏切が39カ所ある。現在一部の踏切では、老朽化による舗装の傷み、幅員の変化による危険性ははらんだ箇所が見られ、JR等と協議し、随時改修を進め、松本踏切・吾川踏切についても、JRと協議を重ねながら、効果的な改修を進めていきたい。

答

産業建設部長

③JRによると、踏切警報装置は特急列車の速度に合わせて警報開始地点を定めており、四国内すべての踏切についてシステム改修するには巨額の費用を要し、現時点では難しいとの回答であった。今後、



三秋端踏切

改修に当たっては、特急列車と普通列車の速度差により、警報開始地点を2地点とする賢い踏切設置や列車選別装置等の導入により、踏切遮断時間の短縮を要望していきたい。

鉄道駅の駐輪場

問

①JR四国・伊予鉄道、各駅の駐輪場の整備状況を問う。
②各駅駐輪場には、放置自転車に多く感じる。その対策を協議願いたい。
③伊予鉄道郡中港駅の駐輪場が未整備であり、利用する市民が不便をきたしている。伊予鉄道と協議願いたい。

答

産業建設部長

①伊予鉄道では、会社用地内に駐輪場用地を確保している。JRについては、伊予市駅や鳥ノ木駅など、利用率の高い駅において敷地内及び隣接地に整備して利用者の利便性を図っているが、他の駅では、駐輪スペースを確保している駅や駐輪場のない駅では、駅前に駐輪するなど、対応がさまざまとなっている。

②伊予鉄郡中線の3駅においては、伊予鉄道が駐輪場を整備しているのが市として対処できない状況にある。

伊予鉄道によると、放置自転車については年に1度、駐輪場の点検と整理を行っているとのことであった。JR駅での放置自転車に対する市の対応としては、伊予市駅と鳥ノ木駅を中心に年に1度実施している。

③駐輪場として駅舎裏に土地を確保して利用しているが舗装等の整備が行われておらず、一部利用者に不便をかけている状況である。

今後、郡中港駅の駐輪場整備並びに放置自転車への対応については伊予鉄道へ要望していきたい。